

2022年サクラだより 5

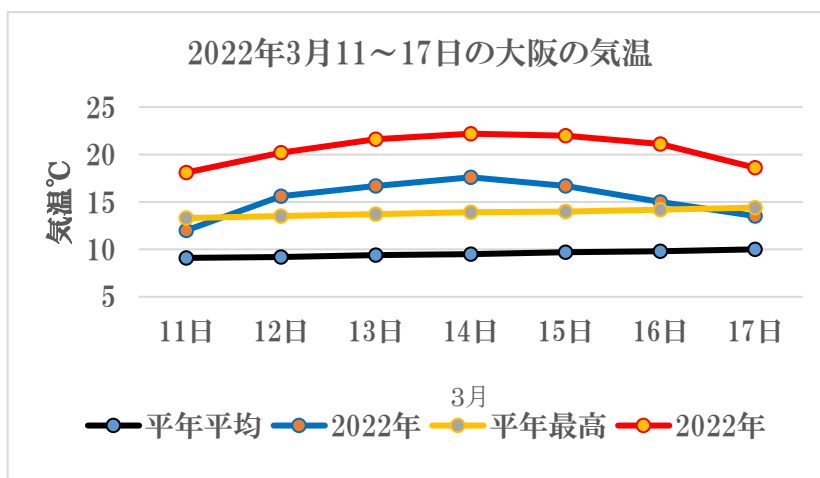
1. 遅れていた春の訪れ

前報で触れたように、3月に入っても10日までの上旬の気温は平年度、8.6℃に対し8.3℃と若干低目に推移した。ところが10日に大阪気象台の発表した3月中旬以降の気象情報『3月12日から18日までの1週間の気温が高い確率が80%』であった。この予報は見事に的中、どころか、実際の気温は右図のようになった。13～15日などは4月下旬の気温に相当するとのこと。この期間の日の積算温度が平年では67℃であるのに対して今年

は107℃と計算され、サクラの開花などに対しては4日分ほど早くなる程度に影響することになる。

この期、サクラばかりでなく遅れ気味であった樹々の開花も一気に進み、昨年度は2月下旬には開花していたミモザ、ハクモクレンも開花、桜と同じバラ科の遅咲き系の紅梅、それに桃、アーモンドなども開花、これに、早咲き？の桜も加わり一気に春の景色に転じました。梅、桃、桜が一時期に見られるのは良いが紅色系の花をつける樹種の多い桜も多い期、遠目での判断は難しく、同じルートでの近所歩きの歩数も増え気味となる昨今である。また、桜の便りと共に、アーモンドの開花は長居公園、宝塚などからの開花情報も頂いています。

(紅梅、桃、敬翁桜 です。)



2. 近所のサクラの状況

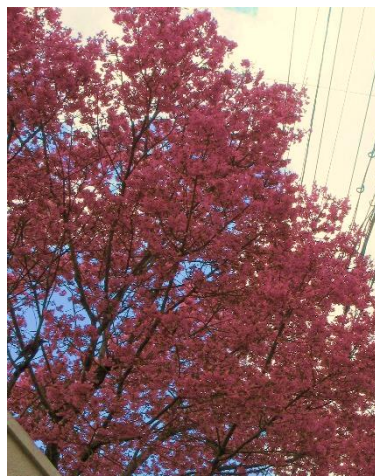
2-1. カワズザクラ

本州では最も早く咲くと言われているカワズザクラは前報までに記述して来たように、観察木では昨年度に比べて10日程遅い2月20日に開花、その後もなかなか開度が進みませんでしたが、この陽気で3月12日に満開（もう1本も3月13日に満開）となり17日には花も散り始め、展葉した葉が目立つようになりました。このサクラは開花期が長かった関係か何人かの方から情報を頂きました。その中から、3月10日に行かれた淀で、水路の入り口付近の対岸から撮影されたというYさんからの映像を拝借して掲載致します。私の観察している1本立ちの木の開花とは違い量感に圧倒されます。



2-2. オカメザクラ

このサクラに関しても、本年の「サクラだより3」で本種の写真と誕生の経緯について書きました。その後、いつもとは少し違ったルートを歩いて見たところ、邸宅の塀越しに左下の写真のような満開の桜に出会いました。カワズザクラのような優しい紅色ではなく、花も小型であり何ザクラかなと思っていたところ、タイミングよく「鶴見緑地」の「オカメザクラ」の画像（右下）をお送り頂きました。開花時期、画像とも一致「オカメザクラ」であると得心しました。幼木のパラパラと花のついた樹の様と成木のとはかなり違うものですね。画像を送って頂くまでは全く別種と思っていました。



2-3. シナミザクラ

前報で、本種も2か所では3月12日、13日が今年の開花日で、昨年よりは2週間ほど遅れたと書きました。もう1ヶ所の樹も3月13日夕刻には数輪の花を開き開花となりました。昨年度にこの種は一旦開花が始まると一気に開花が進むのが特徴のようであると書きましたが……。今年開花期の気温が高かった所為か、何と開花から満開まではほぼ2日、しかも一斉開花で蕾が残ることもありません。日本の自生、6群11種とは全く違った遺伝子を持っているのでしょうか？

3月19日には花がしおれ全体が少し茶色ぼく見え始めていました。やがて果実が見られるでしょう。

2-4. ケイオウザクラ

本種についても、前報で13日夕方に開花を見ましたので開花日としました。この株は気温の高い期間の開花であったのか、14日朝には2分咲き、15日夕刻には「満開」となりました。実に、開花から満開

まで丸2日という超スピードの開花状況でした。また、下記に別場所での本種の写真記録を並べます。

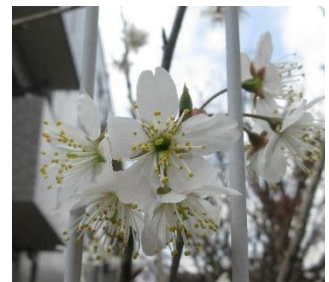


左から、3月14日、3月15日夕、3月17日昼ごろの画像です。これも、14日数輪、15日夕刻には5分咲き程度なので、多分16日には満開になっていたのではと推測しています。

＊このケイオウザクラも、上記のシナミザクラを母体としていますので、同じような形質を受け継いでいるのでしょうね。また、ほぼ一斉開花することが切り花として重用される理由でしょう。

3-5. セイヨウミザクラ

3月14日、近所のサクラ巡りの途中、近隣で右のような大輪（3cm〜）の白色の花を付けた若木（多分昨年植樹？）に出会いました。例によって仲間に問い合わせたところ、自宅庭に「セイヨウミザクラ」を植えているGさんから、写真と「開花」の知らせを頂きました。因みに本種も今年は開花から満開までは2日ほどとのこと、この現象も全く同じ。お送り頂いた写真1枚を添付します。



3-6. 秋咲きザクラ2種。

この冬の間、ジュウガツザクラとコブクザクラの2種は細々とはあるが、数輪から1分咲き程度の花を付け続けて来ていました。開花が続いたと言うよりは、寒い冬であった為、咲いた花の寿命が長かったからかもしれません。班別行動で訪れた、北山緑化植物園でも「ジュウガツザクラ」が見られましたが、未開の冬芽が多いという印象でした。この2種も最近の暖かさの所為で一気に開花が進んだようです。この2種の最近の写真を次頁に添付します。



3-7. その他のサクラの状況.

・**陽光**；昨年の観察樹は昨日に開花しました。なお、陽光は芦屋市朝日ヶ丘町の「さくら参道」が整備され、この道筋のソメイヨシノの古木に代わって「陽光」が街路樹として30本（鷹さ5〜7m）ほど植栽されました。ここも、昨日10本ほどが開花となっていました。

・**ソメイヨシノ**：本日、午前夙川の桜を見に行きました。勿論、樹によりますが、何本かでは蕾が今にも

開きそうな状況でした。今夕か明日には開花となるでしょう。ただ、昨年までの私の観察標準木はもう少し遅れそうです。これ等は次号で報告します。

3. サクラには関係ありませんが・・・

＊今年のサクラの切り枝を使った加温テストで「糖」を含む水をつかった理由として、樹木は芽吹きが近くなると根から水と共に「養分（糖質）」を送り込むこと、その例として北米の「サトウカエデ」や、日本のイタヤカエデやシラカバから樹液を採取して甘味料として使う例に準じたと説明しましたが・・・実例です。



＊NHK 2022年3月14日 18時30分～「Live Love ひょうご」での放映内容。

兵庫県神崎郡神河町での植林運動・地域振興の紹介

・スギやヒノキの伐採後、これ等の若木を植えると、鹿の食害で育たない。スギなどに変えて鹿の食害のない「ウリハダカエデ」などを植栽・育成する運動を進めつつある。

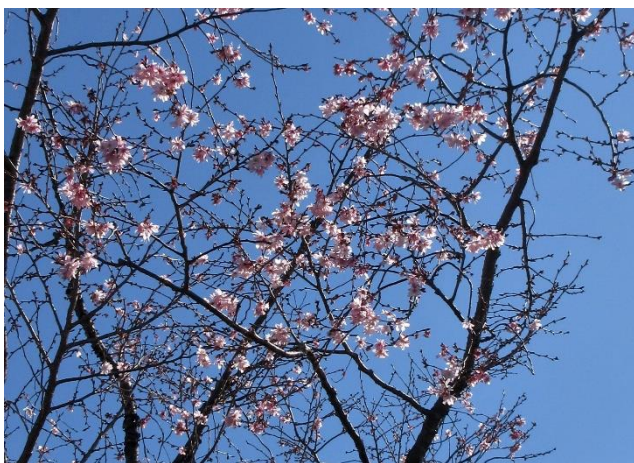
・また、この時期はウリハダカエデから樹液を採取、これを煮詰めて「神河町産 ウリハダカエデ 100% メープルシロップ」が作られている。将来地域の特産品にとのこと。

・道の駅 銀の馬車道・神河 アンテナショップ かまど」で販売。45g 2,000円。

＊「ウリハダカエデ」と言えば、先日の山住先生の「金剛山の植物」の最後の方で取り上げられ「性転換樹木」説をキッパリと否定されたことです。ご記憶にあるかどうか・・・。

講師の方のお名前は忘れましたが以前の「公開講演会」で、春日原生林で「ウリハダカエデ」を使い数年の観察から性転換がある樹木と説明され、当方の「果実を多数付けた枝をもつ樹の存在」についての質問に「性転換は枝」ごとに発生と説明され、釈然とはしていませんでした。今回のカエデなどは元々「雌雄両性の資質」を持ち、周辺要因によってどちらかの性が現れるには納得。甲山森林公園の「ハナノキ」が雄木だけしかないのに時々果実をつける理由もこの説であれば説明が付きます。

（下は左がジュウガツザクラ、右がコブクザクラ、3月15日・芦屋市岩園町で）



以上

